

第17回ウイルス学キャンプ in 湯河原 開催のご案内

主催：ウイルス学キャンプ実行委員会

共催：日本ウイルス学会

JSPS 研究拠点形成事業 Core-to-Core Program 「時空間ウイルス学の国際拠点形成拠点」

はじめに：「ウイルス学キャンプ」とは？

「ウイルス学キャンプ」は日本ウイルス学会 若手研究者育成プログラムの一環として2004年から始まった一泊二日の研究会で、古くより多くの芸術・思索が生み出された湯河原町で開催しています。全国の大学・研究機関等に所属する大学院生・学部生・ポスドク・若手教職員に、招待演者と世話人を加え、例年50人程度で開催しています。世話人も居ますが、一般参加者の方々には基本的にご自身がこの会に積極的に参加いただくスタイルです。ご自身の研究を口頭あるいはポスター発表、聴衆からのフィードバックを得るだけでなく、他の発表にも遠慮なく議論いただく機会となっていますし、今後求める企画・発案ももちろん welcome です。

大きな学会では発表だけで終わってしまい、いまひとつ深い話をするきっかけがないと感じている方、研究室外の人たちや先生から本音の意見やアドバイスが欲しい方、同じ境遇の知り合いを求めている方、ほかにもコロナ禍での外出の億劫さから一歩踏み出したい方、コミュニケーション不足を感じている方など、そんなみなさんの要求に応える会です。今後のご自身に重要な出会いとなるかもしれません。時間の制約をできるだけ払い、参加して良かったと思って帰っていただければ幸いです。

若手のための会ですが、若手に特に定義があるわけではありません。もちろん日本ウイルス学会員限定の会でもありません。ご興味あるみなさま方の、ご参加をお待ちしています。



ウイルス学キャンプ in 湯河原
若手研究者のウイルス集会 (Since2004)



【開催概要】

日時：2023年6月26日（月）12:40 ～ 6月27日（火）12:00まで（予定）

場所：ニューウェルシティ湯河原

静岡県熱海市泉 107

TEL：0465-63-3721

<http://www.welcity-yugawara.co.jp/>

湯河原駅（JR 東海道本線）下車、バス 2 番乗り場

奥湯河原行・不動滝行 約 7 分、「理想郷」下車、徒歩 1 分

対象：主に若手研究者（大学院生、学部生、ポスドク、教職員/常勤研究者など）。

非ウイルス学会員の参加も歓迎します。研究を真剣に行っている・行いたい方。

おおまかなプログラム：

< 6月26日（月） >

*招待講演

～ 新進気鋭の研究者から最新の研究のお話 ～

1. 演題：「エボラウイルス感染の分子機構の解明 ～生体膜ダイナミクスに着目して～」

長崎大学高度感染症研究センター ウイルス感染動態研究分野 教授 南保 明日香 先生

[要旨]

エボラウイルスは、近年の度重なるアウトブレイクとその高い病原性から、早急な対策が望まれる病原体であるにも関わらず、有効な予防・治療法は極めて限定されています。従って、増殖を伴うウイルスの取り扱いには BSL-4 施設においてのみ認められています。エボラウイルスは、特徴的なひも状の巨大な粒子(短径：80-100 nm, 長径：平均 1-2 μm) を形成することが知られています。我々はこの形態に着目し、様々な可視化技術を用いて、細胞の生体膜ダイナミクスという観点から感染機構の解明に取り組んできました。

本講演では、エボラウイルスの侵入とウイルス粒子形成における分子機構についてこれまで得られた知見を紹介します。

2. 演題：「ウイルスを見つける、作る、調べる – デルタウイルスの一例 –」

大阪公立大学大学院獣医学研究科 獣医微生物学教室 教授 堀江 真行 先生

[要旨]

現在、我々が知っているウイルスは地球上のウイルスの0.1%にも満たず、大量の未知のウイルスが存在すると考えられている。私はこれまで、①ウイルスの進化と生態の解明、②新興感染症対策、③遺伝資源の探索などを目的として、様々な動物や環境におけるウイルスの探索や、生物のゲノムに存在するウイルス由来の遺伝子配列を用いた古代のウイルスの多様性の解明を行ってきた。本発表では、我々が近年に行った公共データベースを利用した現代と古代の大規模ウイルス探索と、発見したウイルス（特にデルタウイルス）の実験的解析に関する最新の知見を紹介するとともに、今後の研究の方向性についても議論したい。

*口頭発表（発表時間（予定）は10-15分程度＋質疑応答）

～ 希望者から数名選出させていただきます ～

*ポスター発表

～ 口頭発表以外の一般参加者は基本的に全員ポスター発表をお願いします。

発表できるデータがない方は現在進行中あるいは今後の研究計画など ～

*夕食、お風呂

*班別討論など

< 6月27日（火） >

*いまだから聞けるウイルス学講座

～ 華々しい研究の場面から舞台裏まで ～

3. 演題：「ウイルス学のランドマーク研究を考えてみる」

京都大学 国際高等教育院 特定教授 小柳 義夫 先生

[要旨]

ウイルスとは細胞に感染する蛋白質と核酸の分子複合体であり、生物といえるか疑問であると教わりました。そして、分子が細胞に伝播できるとはじめて理解しました。わたくしがウイルス学に魅せられた40年以上前の授業の記憶です。当時のウイルス学にはすでに多くの重要な発見がありました。それらを始点に現在のウイルス学に考察を加えたいと思います。昨今AIの進歩により社会はこれから大きく変わると言いますが、科学はどのように変わってきたのか、そしてこれから変わるのかをウイルス学のランドマーク研究を参照しながらみなさんと考えてみましょう。

＊若手研究者のためのキャリアパス講座

～ 研究者キャリアを多面的に考える ～

4. 演題：「TCR/BCR レパトア解析の感染症研究への応用」

Repertoire Genesis 株式会社 事業戦略開発部主任 桐栄 雅史 先生

[要旨]

免疫系は生体内で病原体を認識し攻撃することで病気から保護する有益な機能を持ちますが、その詳細は把握しきれておらず、その医療応用への潜在的可能性は高いと考えています。

当社では最近、T細胞受容体 (TCR)、B細胞受容体 (BCR) の免疫レパトアの解析技術を応用し、感染症の治療および予防に有効と想定されるエピトープを予測する新しい技術「抗原予測解析」を開発しました。本発表では当社技術の概要とその感染症研究への応用の可能性について、実例を交えながら御紹介させていただきます。

また、ポスドクから医療機器メーカーへの転職を経て、現在の職に至るまでの私のキャリアパスについても簡単にお話させていただく予定です。

＊テクニカルセミナー

～ 役立てよう、こんな技術を使いたい！ ～

5. 演題：「一細胞解析技術とその展開」

東京大学大学院新領域創成科学研究科メディカル情報生命専攻 生命システム観測分野
特任助教 鹿島 幸恵 先生

[要旨]

NGS の登場以降、オミクス解析は急速に発展してきた。技術の進歩や受託解析の広がりにより、バルクレベルでの解析は勿論、一細胞レベルでの解析も一般的なツールとなりつつある。当初、一細胞解析の利用は、集団内の不均一性を解明できるという特徴から、解析対象の中心はがんや発生であったが、近年では SARS-CoV-2 関連の研究を含め、ウイルス関連の報告も増えている。また、一細胞解析では位置情報の喪失が欠点の一つであったが、現在ではこれを克服した空間オミクス技術も登場し、より多面的な解析が可能になってきた。本セミナーでは、一細胞解析や空間オミクス解析に関して、最近のデータや論文を含めて紹介する。

詳細なプログラムは後日、参加者に直接お知らせします。

なおコロナ対策の都合上、参加者の方々は当日検温を実施いただき、熱発などが無いことを確認の上でご参加ください。

【参加に関して】

定員：計 50 名（先着順で、定員になり次第締切らせていただきます）

費用（予定）：参加費 3,000 円 + 宿泊費 9,500 円

参加申込方法：

以下の書式に記入いただき、電子メールで下記までご連絡下さい。

【宛先】 e-mail: virology-camp*nih.go.jp(*を@に変更して送信してください)

ウイルス学キャンプ in 湯河原 事務局

渡士 幸一（国立感染症研究所 治療薬・ワクチン開発研究センター）

【締切】 2023 年 5 月 15 日（月）

第 17 回 ウイルス学キャンプ in 湯河原 参加申込書

氏名：(フリガナもお願いします)

性別：(部屋割りを決めるために記入お願いします)

所属：

職位：(学生、大学院生の場合は学年も)

電子メールアドレス：

発表演題名：

希望発表形式：(1. 口頭セッション 2. ポスターセッション 3. おまかせ)

要旨（200 字程度）(希望発表形式 1 or 3 の場合にご記入ください)：

宿泊部屋の希望：1. シングル 2. ツイン 3. 大部屋 (4~5 人) ※1

※宿泊部屋については限りがありますので必ずしも希望の通りとならない場合がありますことをご了承ください。

みなさまの多くのご参加をお待ちしています。

ウイルス学キャンプ世話人一同

(迫田 義博、川口 敦史、モイ メンリン、佐藤 佳、一戸 猛志、立川 愛、鈴木 忠樹、
森石 恆司、村田 貴之、岩谷 靖雅、野田 岳志、高田 礼人、川口 寧、渡士 幸一)